



ITU-D SG2 ラポータ会合報告

総務省 国際政策課 後藤 晃



1. はじめに

今次研究会期（2018～2021年）のITU-D第2研究委員会（SG2）ラポータ会合第1回が、2018年10月1日～11日の日程で、ITU本部（スイス、ジュネーブ）において開催された。

SG2は「持続可能な開発の促進のためのICTサービス及びアプリケーション」を研究テーマとして7つの研究課題（Q1：スマート社会、Q2：eヘルス、Q3：サイバーセキュリティ、Q4：適合性・相互運用性（C&I）と偽造対策、Q5：災害リスク管理、Q6：環境、Q7：人体ばく露）があり、各課題の会合とも40名前後が参加。アルジェリア、エジプト、ギニア、ケニア、コートジボワール、ジンバブエ、セネガル、ブルキナファソ、ルワンダ等アフリカ諸国からの参加者が多数。ほか、米国、英国、フランス、イタリア、エストニア、リトアニア、中国、韓国、インド、イラン、UAE、イスラエル、ブラジル、パラグアイ等が参加。また、WHO、ILO、UNIDO等の国際機関、各研究課題に関するITU担当者が参加した。

我が国からは、橋本総務省参事官補佐、後藤総務省ITU係長、川角総務省参与（ITU協会）、中島Q2ラポータ（東海大学）、今中Q5副ラポータ（NICT）、梅澤Q1副ラポータ（KDDI）、小林Q1副ラポータ（NEC）、永沼Q3副ラポータ（NEC）のほか、NTTドコモ、神戸国際大学、塩尻市、東北大学、日本光電工業、中小企業（SME）4社等21名が参加した。

2. 概要

ITU-D SG2の7つの研究課題について、2018年5月のSG2会合で決定した今期における各研究課題の活動方針に基づき、会期末における最終報告書やガイドライン等の取りまと

めに向けて、加盟国、セクターメンバー、試行的に参加が認められたSME及びITU事務局から提出された寄書の報告及び議論、ワークショップでのプレゼンテーション等を通じたベストプラクティスの収集及び分析が行われた。また、他の国際機関、ITU-T及びRのSG、ITU-D SG1等との連携及び研究内容の重複回避、今後の作業方針・スケジュール等について議論し、合意した。

各研究課題の最終報告書に我が国のベストプラクティスを反映させることで、途上国支援を図るとともに、我が国の優れたICTの技術やシステムの海外展開を支援するため、今次会合において以下の取組みを実施した。

（1）SMEの参加及び展示ブースの出展

2017年の理事会で、SMEは分担金の支払いなしでITU-D及びTのSG関連会合に参加できるパイロットプロジェクトの実施を決定した。今次SG2ラポータ会合に我が国から、表のとおり4社の参加希望があり、総務省は、寄書の提出及び展示ブースの出展を支援した。

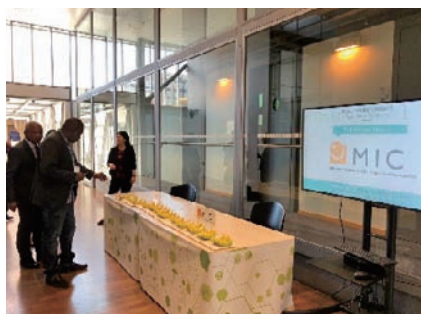
この4社のSMEのほか、情報通信研究機構（NICT）が移動式ICTユニット「MDRU」を展示し、機能の詳細や衛星通信との連携等について、アフリカ諸国から関心が寄せられた。

（2）我が国主導でのワークショップの開催

我が国のラポータ及び副ラポータが中心となって、我が国主導で防災ICT、eヘルス、サイバーセキュリティに関するワークショップを開催し、我が国の優れたICTの技術及びシステムについて紹介するとともに、サイバーセキュリティ政

表1. 我が国から参加したSME4社

企業名	参加形態
大和コンピューター	IoTセンサー及びビッグデータによる効率的な農作物の栽培システムについて、スマートシティに関する研究課題への寄書提出及び同システムを用いたマスクメロンの出展及び試食会の実施。試食した参加者からはメロンの糖度の高さが大変好評であった。
アステム	IPTVによる聴覚障害者向けの字幕及び手話付き放送システムについて、防災ICTに関する研究課題のワークショップでのプレゼンテーション及び出展。
メロディ・インターナショナル	妊産婦リモート診断システムについて、eヘルスに関する研究課題への寄書提出、ワークショップでのプレゼンテーション及び出展。セネガルから同国での実施について支援要請があった。
オレンジテク・ラボ	保健医療情報のビッグデータから各種ソリューションを導き出すAIディープラーニングシステムについて、eヘルスに関する研究課題への寄書提出、ワークショップでのプレゼンテーション及び出展。



■写真1. ICT栽培メロン試食会



■写真2. MDRUの展示



■写真3. 妊産婦診断システムの展示

■表2. 我が国が主導したワークショップ

イベント名	日時	概要
緊急通信システムを利用した防災訓練に関するワークショップ (Q5: 災害リスク管理関連)	10月3日 (水) 午前及び午後 前半	NTTが開発した移動式ICTユニット「MDRU」やNICTが開発した「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」の災害時における活用事例、アステム社が開発したIPTVによる字幕及び手話付き放送サービス、東北大学によるグローバルな災害被害統計データベース整備の取組み等を紹介。また、リモートで講演したフィリピンのCVISNet財団より、総務省がITU及びフィリピン政府と実施したMDRU共同プロジェクト等を紹介。
新たなデジタル医療技術の導入に関するワークショップ (Q2: eヘルス関連)	10月5日 (金) 午前	メロディ・インターナショナルの開発した妊産婦リモート診断システム、日本光電工業が開発したAEDリモート管理システム、オレンジテック・ラボが開発した医療情報のAIディープラーニングシステム、神戸国際大学の研究成果である遠隔医療長期利用者ほど医療費と治療日数が減少する調査結果等を紹介。関連の展示ブースをより多くの参加者に披露するため、コーヒープレイクを提供。
サイバーセキュリティの新たな課題に関するワークショップ (Q3: サイバーセキュリティ関連)	10月9日 (火) 午前	総務省のIoTセキュリティ総合対策の具体的施策として、脆弱性対策に関する体制整備、研究開発の推進、民間企業等におけるセキュリティ対策の促進、人材育成の強化、国際連携の推進に取り組んでいる旨プレゼンテーション。参加者との関連な質疑、意見交換の場としてコーヒープレイクを提供。



■写真4. サイバーセキュリティワークショップにおける総務省 (壇上左から1人目) のプレゼンテーション

策について共有した。なお、今次研究会期におけるSG関連会合でのワークショップの実施については、我が国からWTDC-17決議に盛り込むよう働きかけ、また、2018年5月のSG会合においても寄書を通じて提案したものであり、我が国主導でのワークショップ開催により、SGでの研究活動の活性化に貢献している。

このほか、持続可能な産業化のためのコネクティビティを強化する技術とイノベーション (10月1日、Q1: スマート社

会関連)、ICT機器の偽造対策 (10月4日、Q4: C&Iと偽造対策関連)、電子廃棄物に関する政策 (10月9日、Q6: 環境関連)、電磁界の人体ばく露に関する政策 (10月10日、Q7: 人体ばく露関連) についてワークショップが開催された。

(3) 積極的な寄書の提出

我が国より、SG2ラポータ会合全体で11件の寄書を提出。スマート社会、eヘルス、災害リスク管理、環境に関するベストプラクティスについて、各国と共有した。

地方自治体である塩尻市によるIoTセンサーネットワークの整備により市民生活の利便性向上につなげる多様な取り組みの紹介に対し、会場から多くの意見や質問が寄せられた。また、NTTドコモによる使用済み携帯電話等の小型家電から東京2020大会のメダルを製作するプロジェクトの紹介に対し、会場から高い評価が寄せられた。

なお、他国からの寄書提出数及び提出先研究課題は、ブラジルから6件 (Q2に2件、Q3、Q5、Q6に2件)、セネガルから4件 (Q2、Q4、Q6、Q7)、インドから3件 (Q5に2件、Q6、Q7)、中国 (Q5、Q7)、ハンガリー (Q1に2件)、ガーナ (Q4、Q7)、ベナン (Q1、Q2) から各2件、英国 (Q3)、スイス (Q3)、エストニア (Q3)、リトアニア (Q3)、ロシア (Q6)、

■表3. 我が国から提出した寄書

研究課題	寄書	提出元
Q1：スマート社会	持続可能なスマートシティの提案	塩尻市
	IoT時代に相応しい通信システム候補「LTE Cat.M1」	KDDI
	マスクメロン栽培におけるICT活用農法	大和コンピューター
	スマートな都市及び社会の安全性	NEC
Q2：eヘルス	慢性疾患患者への長期的遠隔医療の経済効果	神戸国際大学
	無線ネットワークに繋がるAEDリモート監視システム	日本光電工業
	ICTを活用した遠隔地のための妊婦の健康管理	メロディ・インターナショナル
	ITサポートによる医療	オレンジテク・ラボ
Q5：災害リスク管理	早期警報及び災害情報の早期収集に関する日本の開発動向	NICT
	災害統計グローバルセンター	東北大学
Q6：環境	東京2020大会メダルプロジェクト	NTTドコモ

韓国 (Q1)、ブータン (Q3)、パラグアイ (Q2)、エジプト (Q1)、ギニア (Q4)、ジンバブエ (Q4)、中央アフリカ (Q7)、ナミビア (Q3)、ルワンダ (Q4) 等から各1件であった。

(4) 他国寄書への対応

全般的に各国のベストプラクティスを紹介する寄書が多かったが、Q3：サイバーセキュリティの会合において、ブラジルから新たに各国のサイバーセキュリティの動向に関する調査を実施するよう提案。我が国より、既にITUが2年ごとにグローバル・サイバーセキュリティ・インデックス (GCI) 調査を実施しているところ、ブラジル提案の調査項目は多くがGCI調査と重複しているため、両者を十分比較・精査した上で、重複のない項目のみをGCIに盛り込む必要がある旨提言。コーヒープレイク中に関係者間で協議した結果、ブラジル提案の調査項目のうちGCIと重複のないものを精査して抜き出した上で、GCIの調査票の別添という形で追加する方向で、2年後の次回GCI調査に間に合うよう作業を進めることとなった。

3. その他

川角総務省参与のこれまでの48年に及ぶITUの活動への貢献・功績が評価され、2018年10月8日 (月) 午後のブレイク中にジャオ事務総局長から表彰状が授与された。また、同事務総局長より、ITUの諸活動への日本の大きな貢献に対する謝意も述べられ、他の国も日本に続いてほしい旨の期待が述べられた。

4. 次回会合日程

SG1会合：2019年3月18日 (月)～22日 (金)

SG2会合：2019年3月25日 (月)～29日 (金)

なお、今次研究会期においては、各研究課題において年次報告書の作成がワークプランに盛り込まれており、各課題のラポータ及び副ラポータにより、上記会合までの年次報告書案の提出に向けて、メーリングリスト等を通じて議論を継続することとなった。



■写真5. 事務総局長から川角参与 (左から2人目) への表彰状授与



■写真6. 事務局長から授与された表彰状